

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立加唐小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・台風、荒天時などでも児童生徒の学びを止めないためにタブレット端末を持ち帰らせ、リモートによる授業を行うことができた。今後もリモートによる授業スタイルのスキルアップが課題である。 ・次年度も複式学級は継続する。「わたり・ずらし」などの授業スタイルの確立やより効果的な学習指導の方法を研修していきたい。 ・教職員が健康で、日々の教育活動に取り組むことができた。働き方改革の推進に今後も取り組んでいきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	<p>夢をもち たくましく 挑戦する 児童生徒の育成</p> <p>— 郷土愛 自律 協働 —</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①地域とともにある学校づくり（体験活動を通じた郷土の魅力を発見・発信する活動） ②離島へき地教育の推進（基礎学力の向上と実践的コミュニケーション能力の育成） ③特別支援教育の推進（R6特別支援学級に向けて組織体制の整備）
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度（評価）	実施結果
	取組内容	成果指標（数値目標）			
●学力の向上	○複式学級における基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成	○1月実施のCRT標準学力検査において、全ての学年・教科で基準値を上回るようにする。	・家庭学習や朝の時間において、復習的な課題を出し、基礎・基本の定着を図る。 ・定期的に確認テストを実施する。必要に応じて補充学習を行う。	A	・朝の時間において応用的な課題を課し、習慣化することで、既習事項を活用して問題に取り組むことができた。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「周囲に対して思いやりをもって接することができる」と回答する児童を80%以上にする。	・各教科、特別活動など教育課程全般において道徳教育の推進を図るよう教職員間の共通理解を図る。	A	・集会にて「チームワーク」「分かち合い」などをテーマにした話を聞いて考えを深め、思いを共有することができた。 ・「周囲に対して思いやりをもって接することができる」と回答する児童を80%以上にすることができた。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員80%以上とする。	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を行う。	A	・児童同士、また児童と教員が協力して行う活動を多く設定した。 ・「学校は、いじめなどのない楽しい学校づくりに努めている。」と回答する教員を100%にすることができた。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童を100%以上にする。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童を100%にする。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童を100%以上にする。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童を100%にする。	・各行事で、児童が役割を担い、自主的に計画、実行し達成感を味わうことができるよう、教師がサポートし、また、その都度児童の成長を賞賛する。 ・校外学習で職業校を見学したり、「夢」や「目標」、「仕事」について、ふれあい道徳等の授業で取り扱う。	A
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康によい食事をしている」と回答する児童を100%にする。	・毎日朝食を食べているかのチェックを行う。朝食を食べることやバランスよく食べることの大切さがわかり、意識して食べる態度を育てる。	A	・中間評価時から引き続き、毎日朝食を食べている児童生徒が100%であった。バランスについては、給食時間に各々の班で適宜、指導をしている。子どもたちからも、栄養バランスに関する会話を聞くことができた。 ・5月から、ランチルームでの給食を再開したが、時間内に食べ終わることができていないため、これからの課題である。
	○健康に関する自己管理の育成	○帰宅時や食事前に丁寧に手洗いができる児童を100%にする。	・「手洗いの日」がある週で、正しい手洗いの方法を指導し、年間を通して啓発を行う。	A	・今年度は感染症流行シーズンの給食時間に、CDをかけて手洗いを実施している。一昨年から実施しているため、歌いながら手を洗う児童も見られる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の徹底 ・長期休業日の年休取得の推進 ・学校閉庁日の設定	A	・長期休業日に年休を取得することができた。中学校の休校に伴い、職員数が減ったものの、業務の削減や効率化を図ることで、時間外勤務を抑えることができた。
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)			
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度（評価）	実施結果
	重点取組内容	成果指標（数値目標）			
○特別支援教育の推進	○特別支援教育の視点を取り入れた教育実践	○特別支援教育の視点を取り入れた実践を行うことができた教員を100%にする。	・各関係機関との情報共有、連携 ・個に応じた学習指導の工夫、改善	A	・「個に応じたきめ細やかな指導を行っている」と回答した教職員は96.4%で、授業の工夫、改善を図ることができた。 ・来年度を見据えた職員研修を適宜実施することができた。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・児童数・職員数が減り、年度当初は学校全体の活気や行事の準備・運営など心配な部分もあったが、全職員が様々なアイデアを出し、一丸となって働いたことで、「心の教育」「健康・体づくり」では、保護者・学校評議員から高い評価を得た。しかしながら、それぞれの授業時数や校務分掌等で各職員に大きな負担となった。来年度は中学校も復活することから、一人一人の業務を減らし、より一層働き方改革を促進し、創造的な教育活動ができるように努めていきたい。</p> <p>・全職員が複式での授業を経験し、校内研究でもよりよい授業づくりについて議論を重ねたことで、授業内容が向上し、CRTテストや漢字検定などで学力の高まりを感じる事ができた。来年度は家庭学習のあり方について、学校全体で話し合っていく必要がある。</p>
--------------------	--